近森オルソリハビリテーション病院

副院長兼看護部長　　中谷　明未

1. はじめに

2022 年は、2020 年から引き続いている COVID-19 の感染拡大の影響を受けつづけ、病院内でも様々な状況に柔軟な対応が迫られた。病院の稼働状況も、高知県のコロナ感染患者数の波や、連携病院の状況に応じて稼働の減少変動がみられた。昨年から引き続いている感染対策の継続と、患者や職員の個々の状況に応じながらの診療継続を行い、タイムリーなルールの徹底など、管理者にとっても気の抜けない一年であった。

2. 病院の状況

当院は、運動器の整形外科専門のリハビリテーションを提供する定床数 100 床の病院である。診療科は整形外科とリハビリテーション科で、病棟は 44 床（急性期一般病床 14 床・地域包括ケア病床 30 床）と 56 床（回復期リハ病床）の病棟 2 単位と外来リハビリテーション機能を備えている。急性期医療を引き継ぎ、患者を全人的に捉え安心して楽しく暮らせる早期の社会復帰のために最適なリハビリテーション医療を 365 日休まず提供するという理念に沿って、日々業務に従事している。

2022 年度の診療報酬改定において、回復期病棟の施設基準の変更があり、当院にとっても病床機能の変更を検討する事となった。今後も社会の状況を見ながら必然的な状況に順応できる体制作りに力を注ぐ必要があると考えている。

病床管理では、病床稼働率平均 89.2%（2021 年 90.9%）と昨年より減少はしたが、年の後半には徐々に回復してきている。

外来では、発熱外来の開設に伴い、外来対応手順や場所の設置、病院や関連病院との連携など、看護部が中心となって活動した。

３．看護部の活動

2022 年は一昨年、昨年に引き続き、COVID-19 の感染拡大によって変化する様々な状況に対し、全力でそして忍耐強く対応し活動した。発熱外来を開設し、年末年始の対応を行った。不慣れな面もあり力は及ばなかったが、高知県民への貢献にもなったと考えている。

病棟の機能再編を視野に、近森会グループ看護部全体で、研修ローテーションを計画し、実施している。各院からの精鋭を、他院へ送り、それぞれの目標に応じた研修内容や期間を設けておこなっている。また、県内の病院への研修参加もあり、スタッフ個々の看護力強化と専門性の向上に努めた。

1）目標管理と評価

近森会グループ看護部目標：

最善の医療・ケアを目指した継続看護の充実

近森オルソリハビリテーション病院看護部目標：

病院と地域をつなぐ看護・ケアの実践

～柔軟な発想でその人らしい生活を支える～

図１　看護部の目標

目標管理では、図１の看護部目標から、自部署の具体的な目標をたて、更に、3 ケ月毎に強化目標をたて、各部署で実施・評価してきた。2022 年度の強化目標は、看護師実践能力のコアとなる 4 つの力（日本看護協会）を取り上げ、「ニーズ」、「ケアする力」、「多職種協同」、「意思決定支援」とした。個人の目標評価についても、毎月自己評価を行っている。看護部基本姿勢は、”気づく・学ぶ・考える”であり、あらゆる状況に応じて対応できる組織と人材を育成していきたいという思いもあり、柔軟な発想を大切に、患者さん個々の状況を客観的に捉えながら個別性を考え、患者のその人らしさを考慮した計画を元に、看護・ケアの提供を行い、少しでも安心して暮らせる生活の獲得にむけ支援している。また、看護部は医療従事者間の調整役も意識しながら、よりよいチーム作りと医療の提供ができるように努めた。

2）労働環境・人員確保

労働環境については、大きな変化はなく、感染対策を実施することと、各個人の生活が脅かされないように支援や面談を行った。有給休暇の取得をはじめ、情報の共有と説明を行い、少しでも個々が納得しながら勤務できる環境作りに努めてきた。

2022 年度の新人看護師配置は各病棟 1 名の合計 2 名あった。それぞれに育成担当者をつけて、部署全体で取り組んだ。看護補助者の定着がうまくいかず、育成体制について工夫を重ねた。

3）その他

看護の質向上や整形外科の専門性を高めるために、行動規制のある中でも可能な学会や勉強会への積極的な参加の働きかけを行った。新人教育をはじめ、骨粗鬆マネージャーの学会参加や回復期病棟認定看護師の活動支援、WEB 研修への参加のための設備などについても支援した。参加実績としては昨年を下回る結果になった。個人単位ではラダーの申請に取り組んだ者、積極的に研修参加を申し出たり、大学院へ進学した者もあり、学ぶ姿勢としては意識が高い風土が出来ていると感じている。

委員会報告では、教育・医療安全・感染対策の各委員会より次項に報告を添付する。

４．データと主な委員会活動報告

1）2021 年近森オルソリハビリテーション病院診療データ（添付資料①）

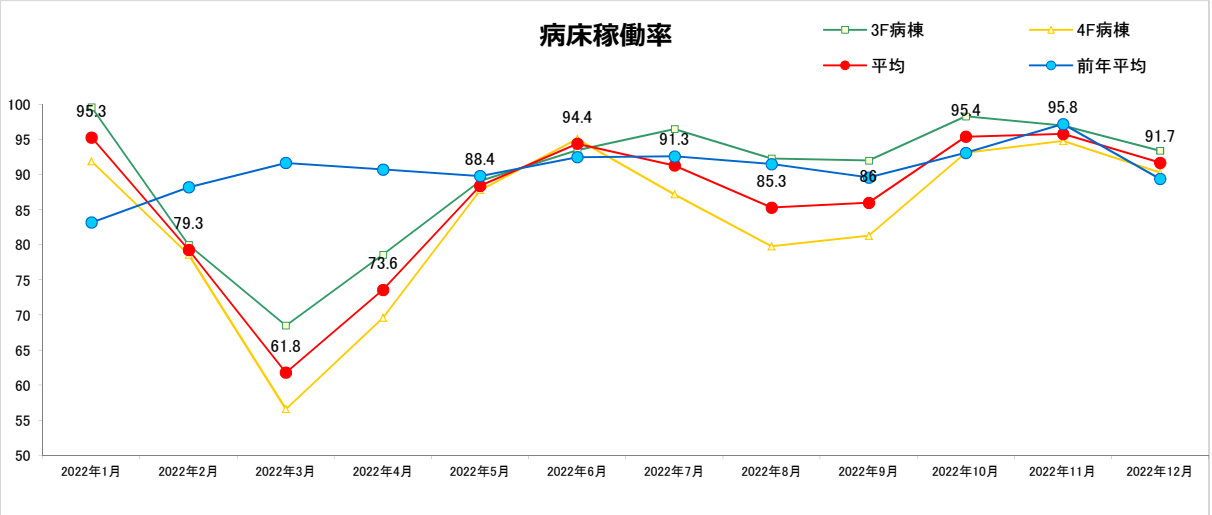
2）オルソ教育委員会資料（添付資料②）

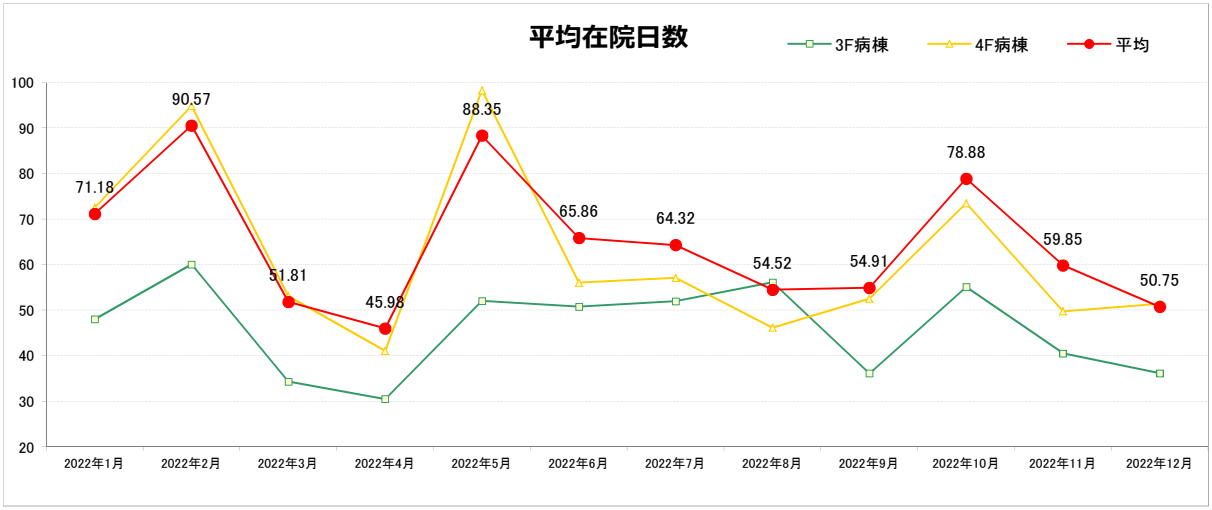
3）オルソ医療安全管理委員会資料（添付資料③）

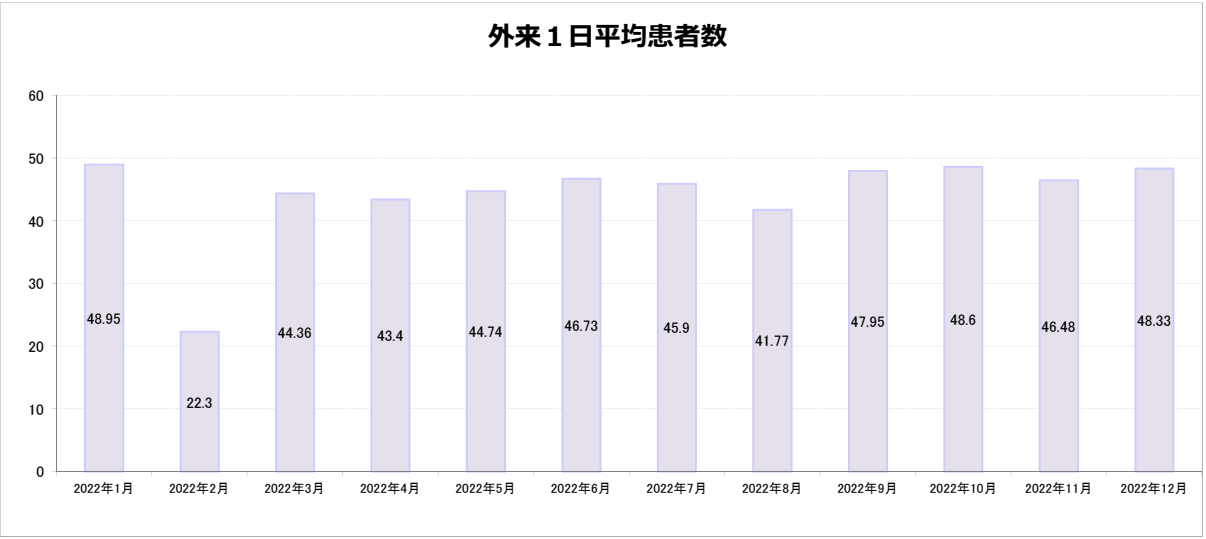
4）オルソ感染対策委員会資料（添付資料④）

５．おわりに

当院の運営基本方針の中に、”「あなたのために」の気持ちでよき医療人としてすべての人に接する”とあり、当院に関わるすべての人の安全・安心のためにこれからも地域医療の中の役割を考え、「ともに歩む・ともに喜ぶ」のフレーズを掲げ、医療・看護に従事していく。

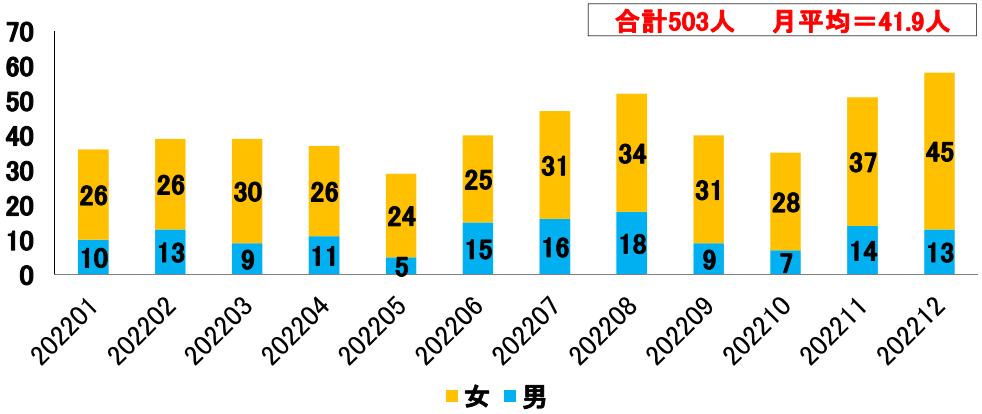

病床稼働率
3F病棟
4F病棟
平均
前年平均
100
95
90
85
80
75
70
65
60
55
50
95.3
79.3
61.8
73.6
88.4
94.4
91.3
85.3
86
95.4
95.8
91.7
2022年1月
2022年2月
2022年3月
2022年4月
2022年5月
2022年6月
2022年7月
2022年8月
2022年9月
2022年10月
2022年11月
2022年12月


平均在院日数
3F病棟
4F病棟
平均
100
90
80
70
60
50
40
30
20
71.18
90.57
51.81
45.98
88.35
65.86
64.32
54.52
54.91
78.88
59.85
50.75
2022年1月
2022年2月
2022年3月
2022年4月
2022年5月
2022年6月
2022年7月
2022年8月
2022年9月
2022年10月
2022年11月
2022年12月

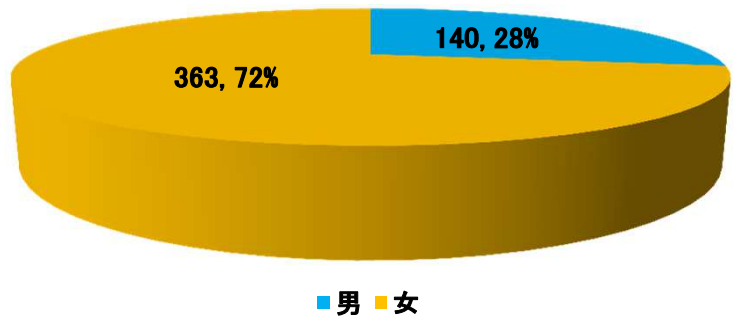

外来１日平均患者数
60
50
40
30
20
10
0
48.95
22.3
44.36
43.4
44.74
46.73
45.9
41.77
47.95
48.6
46.48
48.33
2022年1月
2022年2月
2022年3月
2022年4月
2022年5月
2022年6月
2022年7月
2022年8月
2022年9月
2022年10月
2022年11月
2022年12月

近森オルソリハ病院　月別退院患者数

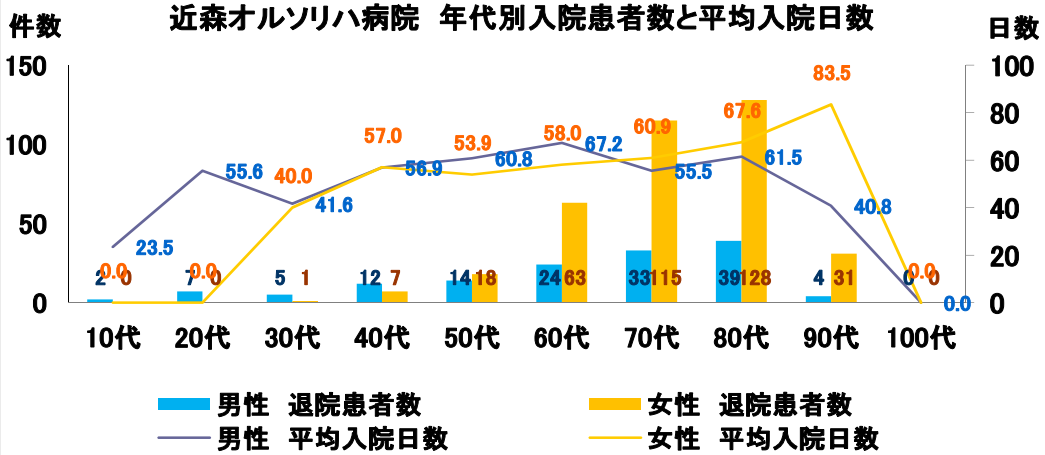
合計503人　月平均＝41.9人



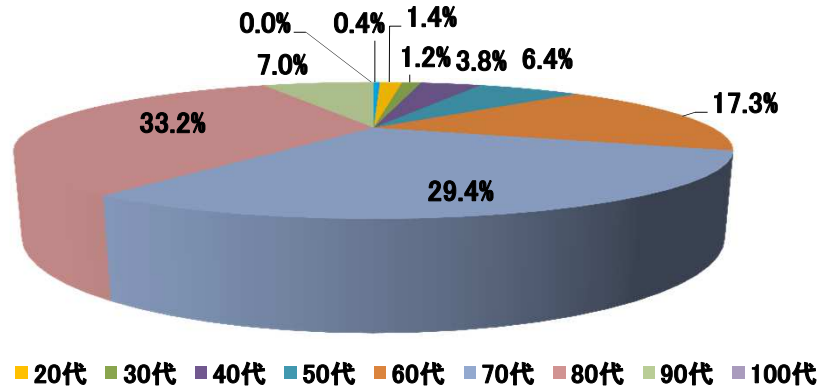
近森オルソリハ病院　入院患者男女割合



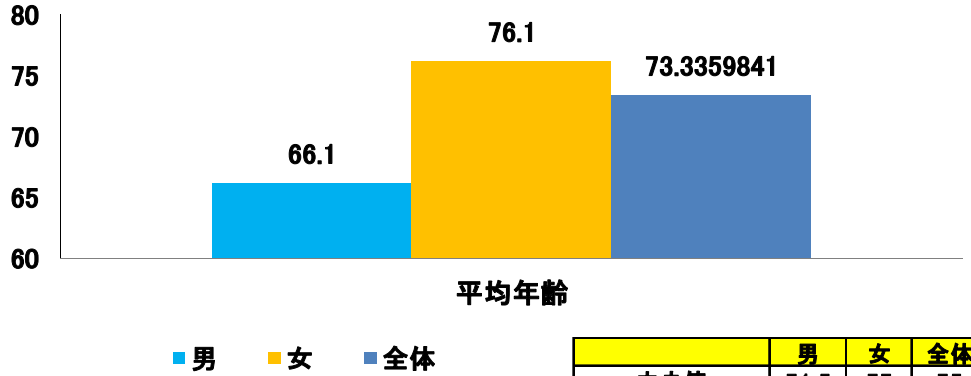
近森オルソリハ病院　年代別入院患者数と平均入院日数



近森オルソリハ病院　入院患者年代別割合

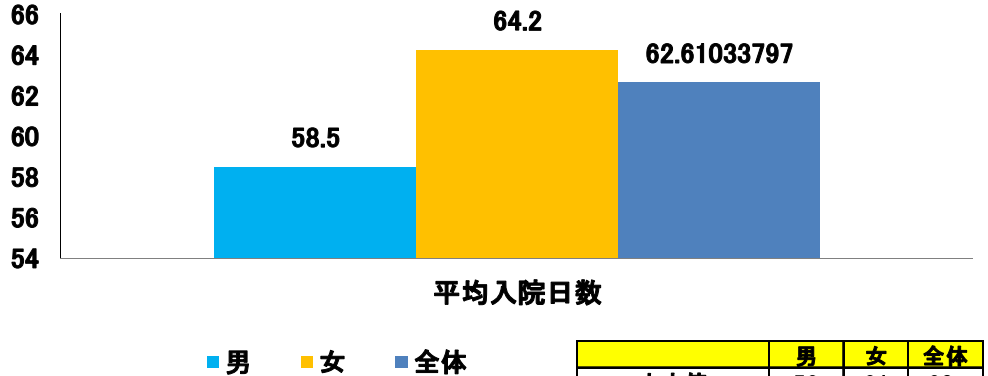


近森オルソリハ病院　入院患者平均年齢（性別）

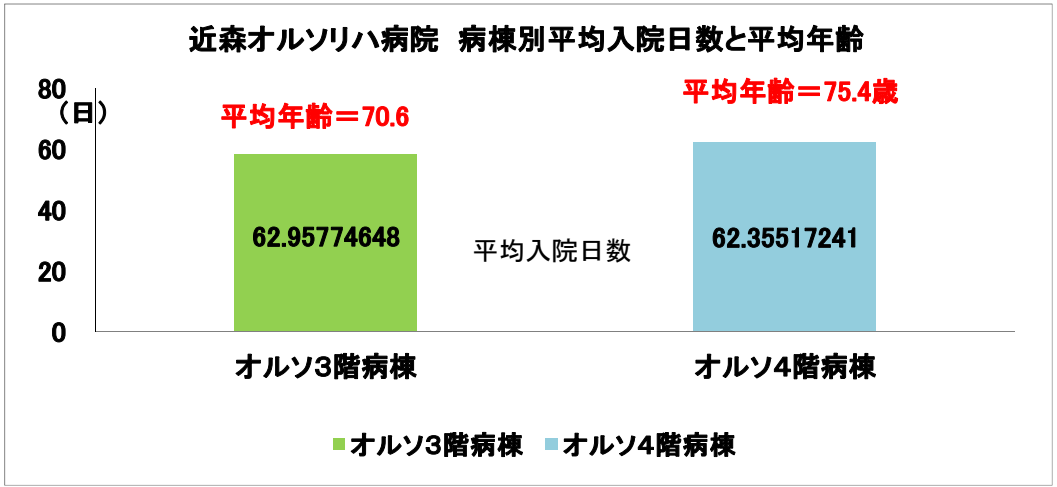


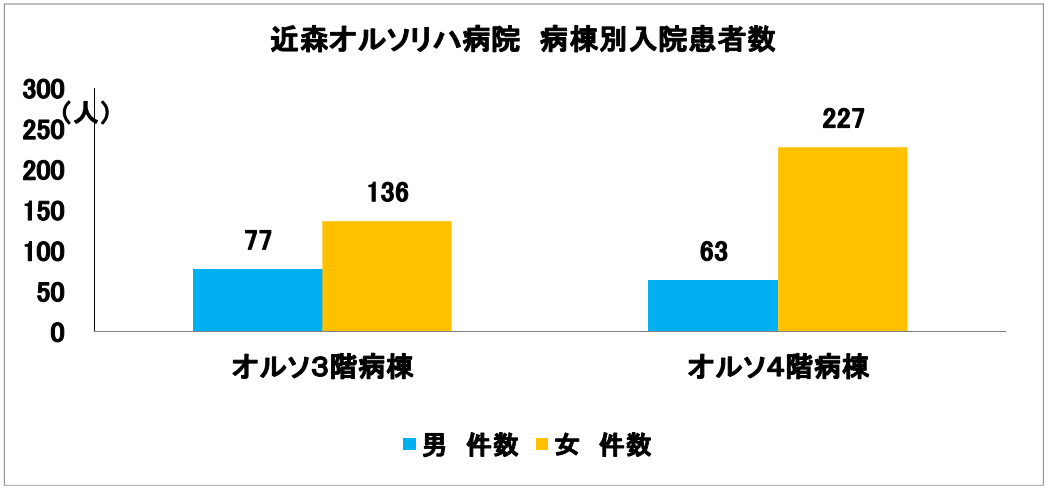
	男	女	全体
中央値	71.5	77	75

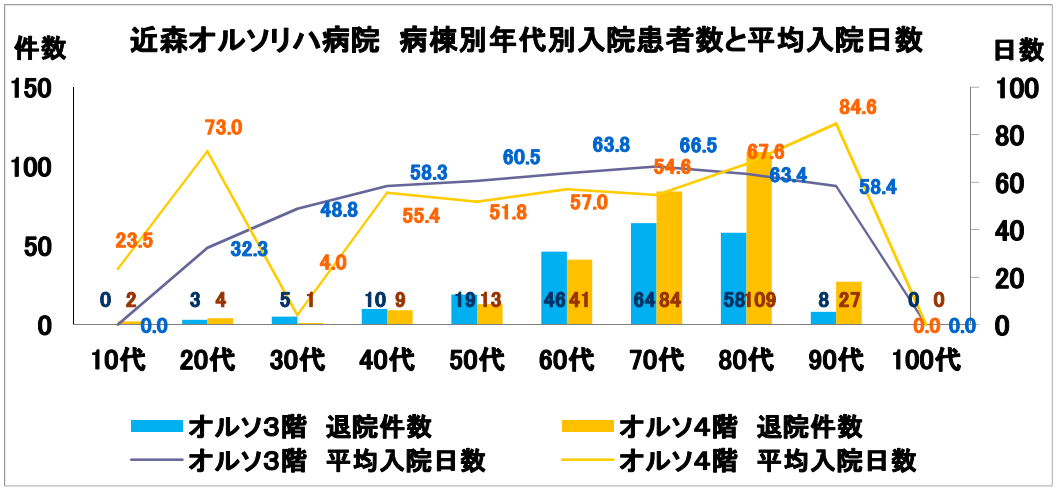
近森オルソリハ病院　入院患者平均入院日数（性別）

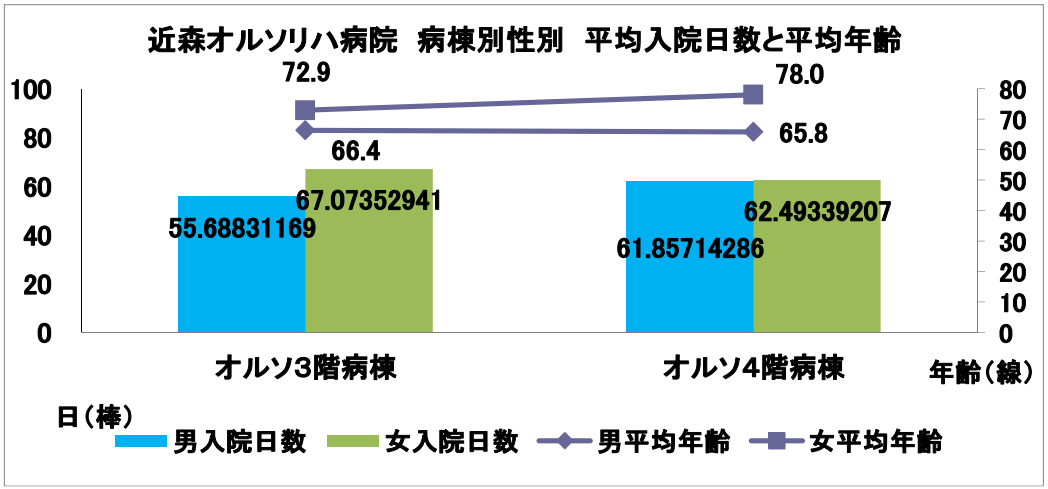


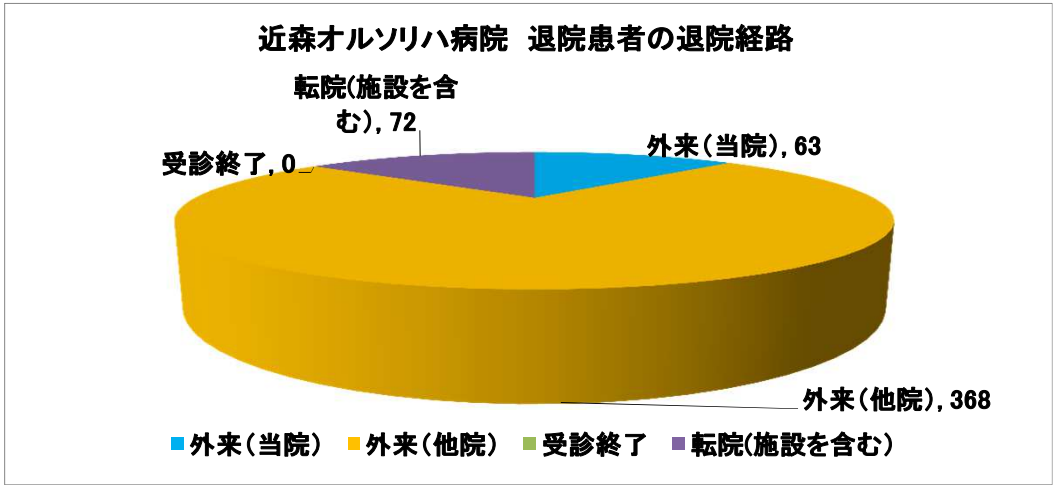
	男	女	全体
中央値	52	61	60


近森オルソリハ病院　病棟別平均入院日数と平均年齢
（日）
平均年齢＝70.6
平均年齢＝75.4歳
62.95774648
平均入院日数
62.35517241
オルソ3階病棟
オルソ4階病棟
オルソ3階病棟　オルソ4階病棟


近森オルソリハ病院　病棟別入院患者数
（人）
77
136
63
227
オルソ3階病棟
オルソ4階病棟
男　件数　女　件数


近森オルソリハ病院　病棟別年代別入院患者数と平均入院日数
件数
日数
10代　20代　30代　40代　50代　60代　70代　80代　90代　100代
オルソ3階　退院件数
オルソ4階　退院件数
オルソ3階　平均入院日数
オルソ4階　平均入院日数


近森オルソリハ病院　病棟別性別　平均入院日数と平均年齢
72.9
78.0
66.4
65.8
55.68831169
67.07352941
61.85714286
62.49339207
オルソ3階病棟
オルソ4階病棟
年齢（線）
日（棒）
男入院日数　女入院日数　男平均年齢　女平均年齢


近森オルソリハ病院　退院患者の退院経路
転院(施設を含む), 72
受診終了, 0
外来（当院）, 63
外来（他院）, 368
外来（当院）　外来（他院）　受診終了　転院(施設を含む)

オルソリハビリテーション病院　教育委員会

副看護部長　　山﨑　成美

看護部教育委員会では、看護職員の人としての成長と職業人としての能力開発を目指すことを目的とし、①看護サービスに関して看護職員の学習ニーズに対応するために必要な教育を行う②研究活動を指導・支援し発表の場を提供する③外部研修生に対しその研修目的達成するために活動を行った。当院は整形外科専門のリハビリ病院であり専門的知識・技術の教育に力を入れており、日頃から熟練した看護が出来る事を目指している。

今年度も、コロナ禍の影響から研修をオンデマンド形式や、人数制限をしながら開催した。出来る限りコロナ禍の影響を受ける事なく、予定通りに出来るように研修体制を工夫した。看護の専門職として常に最善のケアを提供するために必要な知識、技術、態度の向上を促すための学習を支援し、体系的に計画された学習や個々人が自律的に積み重ねる学習、研究活動を通じた学習などさまざまな形態をとる学習を支援する事を目的として活動を行ってきた。

教育委員会活動としては、研修参加の促しや新人や中途異動者の育成、ラダー研修や申請についての支援、オンライン研修実施についての説明などを行った。次年度は病棟編成等あらゆる変化があるため流動的に教育支援について考えながら、専門職として看護職、介護福祉士、看護補助者が安全安心し質の高いケアを提供できるよう支援していく。

１、全職種対象研修会

今年度は、概ね計画通りに実施は出来た、必須研修の中では院内での Zoom 視聴による研修も取り入れ分散開催等の工夫を行った。受講率はまずまずであったが、アンケートの満足度は高い結果となっていた、受講者のニーズに沿う内容となっていたのではないかと考える。多くの人数での開催が困難となっているため、今後は分散開催や企画側、受講者側の負担にならない研修体制について考えていく必要がある。

【表１】全職種対象研修会

1 月 11 日（火）	院内研修会『こんなこと知っていますか？ 薬剤の取り扱いについて』 講師：薬剤師　千頭拓馬	参加者 17 名
2 月 17 日（木）～ 3 月 21 日（月）	【必須】医療安全研修 Safe Master　e ラーニング個人情報保護法に関する実務上の留意点 第 3 章　安全管理視聴・確認テスト 第 4 章　開示視聴・確認テスト	参加者 134 名（参加率 99%）
6 月 1 日（水）～） 6 月 30 日（木）	【必須】感染対策研修 衛生学的手洗いと手指消毒の実際 各部署で実施チェック表を提出する	受講者 131 名（参加率 100%）
8 月 22 日（月）～ 9 月 30 日（金）	【必須】医療安全研修会 S-QUE 院内研修 1000‘E ナース新特別企画より 『接遇～患者家族との信頼関係を築く接遇』 講師：鳥取大学付属病院救急救命センター看護師長 （日本接遇教育協会接遇インストラクター） 足立　好美	参加者 134 名（参加率 99.2%）

10 月 25 日（月）	認知症ケア研修会 認知症ケア加算と算定方法及び事例検討会	参加者 26 名
10 月 12 日（月）	医療機器・医療ガス研修会 医療機器…輸液ポンプ及びシリンジポンプ、ベッドサイドモニター、AED の使用方法について 医療ガス…酸素吸引について 講師：近森病院　ME（西村哲、小川遵）	参加者 52 名
10 月 3 日（月）	院内研修会『こんなこと知っていますか？薬剤の取り扱いについて』 講師：薬剤師　千頭拓馬	受講者 9 名
11 月 28 日（月）	骨粗鬆症の知識の共有と FLS の意義について 講師：骨粗鬆症マネージャー（外来　関恵理、平尾香保、吉本七瀬）	参加者 33 名
12 月 5 日（月）	【必須】感染対策研修会 『感染対策についての Q&A』対面及び Zoom を活用 講師：院長　鄭明守	参加 128 人（100%）

2、看護部研修

今年度もコロナの影響もあり、研修を中止した月もあった。

看護部研修を縮小化してきたため回数も 2 回のみとなった。医療・看護必要度研修についてはオンデマンド研修とし個々で行う形式とした、視聴だけの形式にはなってしまったが次年度は終了テストを入れるなど研修成果がわかるよう工夫が必要と思われる。また、看護実践能力（４つの力）を強化できるよう学習を支援して行く。

【表 2】看護部研修

6 月 13 日（月）	ケースレポート発表会 発表者：新人看護師 1 名	受講者 14 名
6 月 1 日(水)～) 6 月 30 日（木）	S-QUE 院内研修 1000‘フォローアップ必要度第 1 回 2022 年度診療報酬改定後の重症度、看護必要度評価 各個人で視聴	受講者 56 名
6 月 13 日（月）	接遇マナーとコミュニケーション 講師：介護福祉士　南　博人	受講者 14 名
8 月 1 日（月）～ 8 月 31 日（水）	S-QUE 院内研修 1000‘E ナース 第 10 回看護の倫理的問題を解決しよう 講師：大阪府立大学大学院看護学研究科教授：北村愛子	受講者 63 名
10 月 1 日（土） ～10 月 31 日（月）	S-QUE 院内研修 1000‘E ナース 第 18 回 ACP(アドバンスケアプランニング)における看護師の役割 講師：小倉記念病院 急性・重症患者看護専門看立野淳子　氏	受講者 42 名

3、新人看護師育成研修

今年度新人２名を迎えた、コロナの影響から例年通りの研修ができず調整をしながら研修を行って来た。整形外科疾患関連についての研修があまり実施できず、部署や自己で行う形をとったが次年度は実施できるようにしたい。また近森会グループ全員で行う研修が少なく交流が図れなかった為、次年度は全員でできる機会を増やして行く事が今後の課題となる。

今年度は、『自立性を持ち自ら行動できる育成』を目標に新人教育担当者を中心に病棟と連携しながら進めて来たが目標達成はできていない為次年度も引き続き継続していく。

【表３】新人看護師育成研修

４月７日（木）	看護技術 ・吸引 ・酸素療法 講師：新人研修担当者	新人看護師２名
４月８日（金）	・筋肉注射、皮下注射 ・導尿 講師：新人研修担当者	
４月 11 日(水)	・回リハ 10 項目について 講師：回リハ認定看護師	
４月 11 日(水)	・トランスファ研修 講師：理学療法士	
４月 12 日(木)	・当院の概要・WLB について 講師：中谷明未看護部長 ・当院の医療安全について 講師：岡村シニア師長 ・当院の感染対策について 講師：関　恵里	
４月 22 日(金)	看護必要度研修 講師：新人研修担当者	
５月 18 日(水) ～5 月 19 日(木)	テルモ研修(講義・演習) 講師：新人研修担当者	
５月中	S-QUE 院内研修　E ナース ①　意識レベルの見方評価 ②　心肺蘇生法	
６月中	S-QUE 院内研修　E ナース ①　創傷・褥瘡ケア ②　リハビリテーション ③　感染管理	
６月 21 日(木)	整形外科看護について 講師：新人研修担当者	
７月中	S-QUE 院内研修　E ナース ①　フィジカルアセスメント（呼吸循環） ②　酸素療法 ③　フィジカルアセスメント（脳神経）	
８月中	S-QUE 院内研修　E ナース ①　看護師の為のエンゼルケア ②　実践的酸素療法	

8月4日（火）	急変時の対応 ①　講師：西森公美主任他	新人2名
8月11日（火）	接遇マナーとコミュニケーション 講師：南博人　PSサポーター	
8月25日（火）	BLS研修 講師：救急蘇生委員	
9月中	S-QUE院内研修　Eナース ①与薬と注射 ②栄養療法	
9月8日（木）	多重課題（DVDにて） 担当：新人研修担当者	
9月22日（木）	急変時の対応について 講師：新人研修担当者	
9月24日（木）	サマリ、看護記録の書き方について	
10月中	S-QUE院内研修　Eナース ①　感染防止対策 ②　排泄援助	
10月20日（木）	倫理Ⅰ（合同） 講師：近森会G新人教育担当者	
10月27日（木）	サマリ、看護記録の書き方 講師：新人研修担当者	
11月中	S-QUE院内研修　Eナース ①　診療の介助 ②　肺痰ケア	
11月11日（金）	看護過程、ケースレポートの書き方（リハ病院と合同） 講師：新人研修担当者	

4、看護補助者研修

今年度は4月当初コロナの影響もあり主に研修をS-QUE1000ナースエイド研修とし、2研修のみ対面研修とした。集合研修については、勤務の都合から全員を集めての実施は出来ていないが、次年度は集合とオンデマンド両方で進めて行きたい、看護師と看護補助者がタスクシフト/シェアについての学習を深めていく事を目標にしていく。

【表４】看護補助者研修

4/1～5/30	看護補助者の役割と職業倫理 ・医療制度の理解 ・チーム医療の一員となるための役割と責任 ・看護補助者の職業倫理	19名受講
4/1～5/30	看護補助者業務における医療安全 ・患者安全を考慮した業務の遂行 ・患者安全を考慮した業務の遂行 ・移動・移送時の安全確認と援助	19名受講
6/1～7/30	【身につけたい感染予防技術】 ・スタンダードアプリコーションについて（廃棄物医療機器の取り扱い） ・スタンダードアプリコーションについて（使用機材、器具の取り扱い） ・暴露予防～リスク要因を知る～	19名受講

6/1～7/30	【生活環境に関わる業務】 ・病室環境の調整 ・入院病室の準備、退院後の病室整備	19 名受講
8/1～9/30	【食事介助と口腔ケア】 ・「食べる」楽しみの獲得 ・自立支援につなげる食事介助 ・口腔ケアの基本について	19 名受講
8/1～9/30	【身体の清潔に関する業務】 ・入浴シャワーについて ・部分浴・シャワー浴、洗髪、整容の介助 ・部分清拭、寝衣交換	19 名受講
10/7（金）	【感染予防について】 標準予防策について、個人防護具の使用について（演習）	19 名受講
10/25（火）	【認知症ケア研修会】事例検討会	19 名受講
12/1～1/31	【身体の移乗に関する業務】 ・体位交換 ・車いすでの移動・移送 ・ストレッチャーでの移乗・移送、歩行介助	19 名受講
12/1～1/31	【排泄介助に関する業務】 ・排尿・排便の援助 ・オムツ交換 ・トイレへの誘導、排尿・排便困難時の援助	19 名受講

5、看護実習

今年度は例年４校（高知中央高校（基礎成人）、専攻科（成人）、高知学園短期大学（基礎慢性）、近森病院付属看護学校（老年）一部、龍馬看護ふくし専門学校（基礎）の看護学校を受入れ予定であったが実習中止とした。実習を中止となると学生の患者とのコミュニケーションやスタッフからの指導等を受ける事が出来ない為、次年度は出来る限り受け入れていく方針である。

近森オルソリハビリテーション病院　医療安全委員会

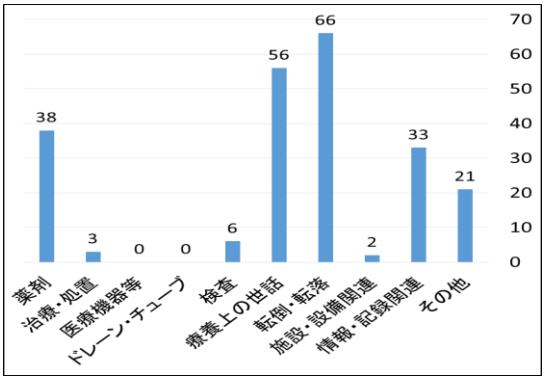
シニア看護師長　岡村美紀

委員会開催及びインシデント・アクシデント報告件数

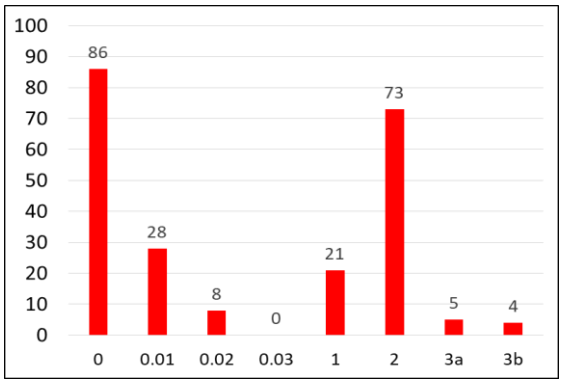
医療安全委員会は、「患者の安全を守り、医療の質を高めるための医療事故防止活動を通じて当院および各部門における医療事故防止体制の整備を図り、適切かつ安全な医療を提供する」ことを目的とし活動をしている。2022 年の委員会開催は、毎月 1 回の 12 回、委員会の下部会（セーフティスタッフ会）は 14 回の開催であった。

2022 年（令和 4 年）1 年間のインシデント・アクシデント報告件数は、インシデント 221 件、アクシデント（3ｂ以上）4 件の合計 225 件あった。（事例の内容と事象レベルはグラフ 1、2 参照）

◆グラフ 1　　事例の内容別報告件数



◆グラフ 2　　事象レベル別報告件数



強化取り組み

年度の取り組みとして、医療安全委員会で強化取り組み項目を決定し分析及び必要な対策を実施している。今年度も「転倒・転落」と「患者確認」に注目し活動をした。「転倒・転落」については、入院時より環境設定や注意喚起を行い、危険行動が予測される患者ではコールマットやひもコールの活用などの対策を行っている。日々の安全対策カンファレンスにて他職種との情報交換・共有を行い、効率よくタイムリーに安全対策の評価ができている。「患者確認」については、内服薬関連・情報記録関連で確認不足による報告が多かった。「療養上の世話」についての報告が増加しており、主に臨床栄養部（調理担当関連）からケアレスミスによる報告となっており、人員不足によるフォロー体制や共通ルールの厳守が不足していたと考えられる。インシデント内容については、関連部署のセーフティスタッフと情報共有・注意喚起をし、配膳時など協力体制を強化したことでアクシデントにつながる報告はなかった。また、昨年より引き続き「新型コロナウイルス感染症予防対策による面会制限」により、入院患者の荷物など受け渡し窓口を当番制とし、担当内容をマニュアル化することでトラブル発生防止に努めた。院内研修では、面会制限のなか患者家族との接遇について考え、信頼関係を構築するための学びを深めた。次年度は、当院の報告事例の中で件数の多い「転倒関連」や「内服管理」について取り組むこと、患者の生活や働くスタッフの業務が安全・安心して行えるために強化項目をあげて安全の質が向上するように医療安全活動を続けていく。

院内ラウンド

部署の医療安全委員（セーフティスタッフ）には、部署内の医療安全活動に注目し、ラウンド報告を委員会へとあげ、事象の背景や原因につながりはないかと詳細に考えるツールとなっている。また、報告内容を参考に医療安全管理者ラウンドも強化した。部署内での状況を下部会の議題とし、院内での検討に提案する形が定着した。

院内研修会

新人研修をはじめ、全職種対象の研修会では、当院で発生したインシデント等より、必要な内容を医療安全委員会下部会にて提案し、医療安全管理者が中心となり医療安全委員会等で決定する。表 3 に一部内容を示す。

◆表 3　2022 年医療安全研修会の内容と参加率

開催日	研修名 (テーマ)	内容	対象者と 参加率
2022/2/17(木) ～3 月 21(月)	2021 年度下期 院内研修会	Safe　Master e-Learning 個人情報保護法に関する実務上の留意点 ①安全管理②開示（視聴・確認テスト）	全職員 99.25%
2021/4/5(月)	新人研修	①医療安全に対する考え方を理解する。 ・医療安全施策の動向、ヒューマンエラーと防止策：「人は誰でも間違える」からこそ必要な対策 、エラーに関する人間的特性、５Ｓの定義、ヒューマンエラー防止のキーワード等。医療安全とコミュニケーション、医療安全のための危険予知訓練。 ②医療安全活動の紹介。	新人職員 100%
2022/8/21(月) ～9 月 30(金)	2022 年度上期 院内研修会	S-QUE 院内研修 1000’E ナース新特別企画 接遇～患者家族との信頼関係を築く接遇～ ①接遇について②身だしなみについて ③表情、態度のポイント ④あいさつについて ⑤聴き方、話し方のポイントについて ⑥言葉遣いのポイント ⑦日常の対応について	全職員 99.25%

オルソ感染対策委員会

オルソリハビリテーション病院感染対策副委員長　関　恵里

活動

2022 年度も新型コロナウィルス感染症は猛威をふるい、前年度に引き続き『安全と安心な医療の提供と自己を守る』ことを目的に活動を行った。この感染症に立ち向かうためには、病院全体としての統一した取り組みと、各部署での状況に応じた感染対策が重要となってくる。そのため、感染ミーティングを継続して行い、各部署の課題の抽出と改善に取り組んだ。

研修については、新人研修や看護補助者研修では、感染対策の基本となる「手指衛生」と「個人防護具の着脱」をテーマに、グリッターバグや個人防護具の着脱の演習を行った。上期の研修でも感染対策の基本である「衛生学的手洗い・手指衛生」を各部署の ICT が中心となり手技の確認を行った。下期の研修では、「オルソコロナＱ＆Ａ」をテーマに、各部署から、知りたい内容を抽出し感染対策委員長が答える形で、Zoom を活用したハイブリット方式での講義を実施した。上期、下期の研修は、数日間かけて実施し、ほぼ全職員が参加することができた。看護部を対象とした研修では、「鼻咽頭ぬぐい液」検体採取法の手技の確認を ICT が中心となり実施し、新人からベテランまでの全看護職員が、安全・確実にできることを目指した。

また、ICC のメンバーによるラウンドを実施し、換気・環境面で感染対策の実施状況を確認することも継続した。感染状況の把握と対策に追われる日々であったが、オルソ全職員の協力により、入院患者の新型コロナウィルス感染の発生は無く経過している。

表 1 2022 年 1 月から 12 月院内外研修会

研修日	研修会名	参加人数
4 月 12 日	オルソ新人教育（感染研修会）	6 名
6 月 1 日～30 日	2022 年度オルソ感染研修会・上期 『衛生学的手洗い・手指衛生』	131 名
10 月 17 日	看護補助者研修（感染研修会）	9 名
12 月 4 日	高知県看護協会 『新型コロナウィルス感染症対応看護職員養成研修』	1 名
12 月 5 日～19 日	2021 年度オルソ感染研修会・下期 『オルソコロナＱ＆Ａ』	128 名
12 月 23 日～	オルソ看護部研修 『検体採取法　―鼻咽頭ぬぐい液―』	47 名

職場巡視：2 名以上で 1 週間毎
週報と菌の感受性報告：1 週間毎
マニュアル改訂
感染ミーティング：2～4 週間毎
オルソリハビリテーション病院 感染対策下部委員会：第三水曜日
オルソリハビリテーション病院 感染対策委員会　　：第二水曜日